

新潟大学では大学院の他に専門職大学院を1つもち、合計5つの研究科があります。

教育実践学研究科		
専門職学位課程（2年）	教育実践開発専攻 (教職大学院)	教育実践コース / 学校経営コース
現代社会文化研究科		
博士前期課程（2年）	現代文化専攻	情報社会文化 / 現代人間科学 / 生活健康行動科学
	社会文化専攻	アジア社会文化 / 欧米社会文化 / 国際日本文化
	法政社会専攻	法政社会 / 国際社会
	経済経営専攻	経済社会 / 経営会計
博士後期課程（3年）	人間形成研究専攻	人間形成文化 / 現代教育文化
	共生文化研究専攻	地域共生文化 / 国際共生文化
	共生社会研究専攻	地域共生社会 / 国際共生社会
自然科学研究科		
博士前期課程（2年）	数理物質科学専攻	物理学 / 化学 / 数理科学
	材料生産システム専攻	機能材料科学 / 素材生産科学 / 機械科学
	電気情報工学専攻	情報工学 / 電気電子工学 / 人間支援科学
	生命・食料科学専攻	基礎生命科学 / 応用生命・食品科学 / 生物資源科学
	環境科学専攻	自然システム科学 / 流域環境学 / 社会基盤・建築学 / 地球科学 / 災害環境科学
博士後期課程（3年）	数理物質科学専攻	物理学 / 化学 / 数理科学
	材料生産システム専攻	機能材料科学 / 素材生産科学 / 機械科学
	電気情報工学専攻	情報工学 / 電気電子工学 / 人間支援科学
	生命・食料科学専攻	基礎生命科学 / 応用生命・食品科学 / 生物資源科学
	環境科学専攻	自然システム科学 / 流域環境学 / 社会基盤・建築学 / 地球科学 / 災害環境科学
医歯学総合研究科		
修士課程（2年）	医科学専攻	
博士前期課程（2年）	口腔生命福祉学専攻	
博士後期課程（3年）	口腔生命福祉学専攻	
博士課程（4年）	分子細胞医学専攻	遺伝子制御 / シグナル伝達 / 細胞機能 / 分子情報医学 / 新領域開拓研究センター / 連携大学院
	生体機能調節医学専攻	内部環境医学 / 器官制御医学 / 機能再建医学 / 感覚統合医学 / 腎科学 / 可塑性機能制御
	地域疾病制御医学専攻	国際感染医学 / 地域予防医学 / 総合医療評価学
	口腔生命科学専攻	口腔健康科学 / 摂食環境制御学 / 顎顔面再建学
保健学研究科		
博士前期課程（2年）	保健学専攻	看護学分野 / 放射線技術科学分野 / 検査技術科学分野
博士後期課程（3年）	保健学専攻	看護学分野 / 放射線技術科学分野 / 検査技術科学分野

教育実践学研究科

現代社会文化研究科

大学院への進学
例年、約600人が大学院へ進学しています。
（うち、約70人は他大学院へ）

進学率（2017年度）
工学部62％、理学部56％、農学部31％をはじめ、
文系学部（人文・教育・法・経済）は約7％の学生が
大学院（他大学院含む）へ進学しています。

教育実践学研究科（教職大学院）は、教員養成の先端的役割を担うことを目的に、確かな理論と優れた実践的能力を備えたスクールリーダーの養成並びに学校づくりの有力なリーダーとなり得る指導力・展開力を備えた新任教員の養成を通して地域及び学校の教育力の向上に貢献します。

■ **取得できる学位**
教職修士（専門職）

■ **特色**
1）勤務校の学校課題を授業の題材に据えることにより、理論と実践の緊密な往還のもとでの学びができます。
2）複数の現職教員院生の勤務校での履修を通して、異なる学校の多様な実情を学ぶことができます。
3）学校現場が抱える様々な課題に対する知見をもち、教職員との協働により、一人ひとりの子どもの実態に沿ったきめ細かな学習支援や生活支援を行う力を身につけることができます。

「課題探求能力の育成」

現代の社会は、自己責任型社会へ急速に転換しつつあります。自己責任型社会では、時代の変化に、私たちが主体的に対応できる能力が求められます。それには、自分で学ぶ能力を基礎にして、将来の課題を探求し、幅広い視野から総合的な判断を下すことができる課題探求能力を習得する必要があります。

■ **取得できる学位**
修士（文学、法学、行政学、経済学、公共経営学、経営学、学術）
博士（学術、文学、法学、経済学、教育学）

■ **特色**
1）人文科学・法学・経済学・教育科学にまたがる多数の教員による、自分の研究課題に沿う指導を受けることが可能
2）学生一人ひとりに履修指導委員会を設け、研究課題に応じた履修指導と論文指導
3）博士前期課程では、各自の課題を探求するに必要な専門的学力の習得、博士後期課程では、課題解決能力の獲得を目指したカリキュラム
4）各自の研究課題に応じた学位を取得可能
5）社会人や外国人を対象にした特別入試の実施
6）博士前期課程では2年、博士後期課程では3年の標準修業年限で学位を取得する履修体制

入学定員

博士	現代社会文化研究科	前期 60人	後期 20人
	自然科学研究科	前期 487人	後期 70人
	保健学研究科	前期 20人	後期 6人
	医歯学総合研究科	前期 6人	後期 3人
		101人	
修士 専門職	医歯学総合研究科	20人	
		20人	

自然科学研究科

自然科学研究科は、博士前期課程（2年）と、博士後期課程（3年）を持つ区分制大学院であり、前期課程修了生には修士の学位が、後期課程修了生には博士の学位が授与されます。

自然科学研究科では、国際的な先端研究や生産現場や地域の要望に応える研究など、理工農学災害復興分野の基礎ならびに応用に関する教育と研究を通して、それぞれの専門分野での研究能力を育成するとともに、幅広い視野と創造性豊かな人材の養成を目指します。教員からの緊密な指導、学会発表や、論文執筆など未知の分野の研究への挑戦を通して、これからの学術、文化、技術の進展に対応し、各分野の課題を解決できる能力を持ち、実社会に役立つ研究者、教育者、技術者などの育成を目指します。

■ 取得できる学位

修士（学術、理学、工学、農学） 博士（学術、理学、工学、農学）

■ 特色

博士前期課程

現代は、科学技術の発展が急速で学部教育のみでは専門家として認められない場合があります。博士前期課程では、学部だけでは十分に達成できない各分野の研究能力や、技術者など専門職業人としての知識と能力を身につけることができます。学部教育との継続性を配慮し、新潟大学の理工農学部出身学生の大学院への進学に配慮するとともに、他大学の学生や留学生にも広く門戸を開き親身の指導をしています。

博士後期課程

博士後期課程では、高度な専門性の高い研究を通して、研究者や高度な技術者などを育成します。博士後期課程では、博士前期課程からの進学者だけでなく、社会人、留学生、修士既修了者の入学も歓迎し、3年での博士の学位取得が可能です。

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、生命科学や技術の著しい進歩、多様化する医療課題、ニーズに対応するため、先端的生命科学についての教育・研究に重点を置くとともに、その成果を医療の進展に活かし、地域社会と世界の医療に貢献できる人材の養成を目指しています。

■ 取得できる学位

修士（医科学、口腔保健福祉学）
博士（医学、歯学、口腔保健福祉学、学術）

■ 特色

医歯学総合研究科は、従来の医学部と歯学部との壁、講座間の壁を取り払い、医学・医療を取り巻く環境の変化に対応しうる教育や研究を行い、先端生命科学研究を担える研究者や、この研究成果に支えられた臓器移植や再生医療などの先進医療を行える医師や歯科医師、地域や国際社会で予防医学的実践活動の出来る公衆衛生実践者などの高度専門医療人を養成します。

修士2年課程の医科学専攻、博士4年課程の分子細胞医学、生体機能調節医学、地域疾病制御医学と口腔生命科学の4専攻に加え、口腔を中心に保健・医療と社会福祉学領域などとの学際的研究を推進できる研究者・高度専門職業人を養成することを目的とした口腔生命福祉学専攻（博士前期2年、博士後期3年課程）を設置しています。医歯学総合研究科では、医歯学系の教員の他、医歯学総合病院、脳研究所、腎研究施設の教員、さらには、総合大学の利点を生かし、自然科学研究科、人文学部、教育学部、法学部、理学部、工学部の教員も協力教員として参加し、多面的な教育・研究を行っています。

保健学研究科

●心身の疾病と健康に関する包括的な研究と、研究成果の社会への還元により、健康増進と疾病の予防に広く貢献し、人類の幸福に寄与することを基本理念とします。

●幅広い知識と高度の技術の教授、独創性・専門性の高い研究指導を通して、保健・医療機関で活躍できる高度医療専門職者、および、主体的な研究能力を有し、教育研究者への第一歩を踏み出す人材を育成することを目的とします。

■ 取得できる学位

修士（保健学） 博士（保健学）

■ 特色

- 1) 医療・保健・福祉施設や教育研究機関等において職務を継続しつつ、大学院教育を受けることができるように、社会人の受け入れ体制を整備しています。
- 2) 保健学専攻の共通基盤を修得、次いで各専門科目の基礎及び総合的な知識の修得の後、専門科目を深く学び、リサーチワークに結びつけるという体系的な教育課程の編成となっています。
- 3) 看護学分野においては、専門看護師教育課程を設置し、専門看護師の養成を行うことにより、人々の健康支援と疾病の予防に貢献します。
- 4) 放射線技術科学分野においては、医学物理士養成コースを設置し、医学物理士の養成を行うことにより、安全な高度先端医療の提供に貢献します。